

事前  
キャンプの  
概要

# パラリンピック代表チーム 「ParalympicsGB」

英国パラリンピック代表チーム「ParalympicsGB」は、選手・スタッフあわせて総勢200人が川崎市・横浜市で事前キャンプを行い、川崎市等々力陸上競技場では陸上競技の選手団約90人が、2021（令和3）年8月14日から8月30日までトレーニングを行った。彼らは、横浜市みなとみらい地区の宿泊施設から専用車両で等々力陸上競技場へと移動したが、車いすを利用する選手はリフト付きの福祉バスで移動する必要があるため、陸上チームの移動用にBPAが複数の車両を準備し、連日競技場の駐車スペースが福祉バスであふれ返る状況となった。競技場での選手団の乗降場所もオリンピック代表チームのキャンプ時に使用していた正面エントランス前ではなく、スロープのあるメインスタンド端のエントランス前となったため、サポーターがスロープにさまざまな応援メッセージを並べ、選手の移動ルートをもっと明るく装飾した。BPAも持参したバナー類をメインエントランス内ホールに設置するなどして、これまで複数競



スロープを通過してパラリンピック選手団が到着

技チームが行き交いにぎやかだったキャンプの雰囲気がParalympicsGB一色となり、アットホームで落ち着いた雰囲気へと変わった。

## ■ キャンプスケジュール

陸上チームは最大でも90人程度と、オリンピック代表チームと比較すると小規模のキャンプとなった。選手ごとにコーチや介助するスタッフがいるため、少人数で固まって行動し、午前だけ練習して昼には宿泊

施設に戻ったり、あるいは夕方から練習にやってきましたり、というように、滞在時間も長くて数時間の場合がほとんどであった。オリンピック代表チームのキャンプ時と比較すると、早朝から夜間まで競技場の使用時間は長くなったものの、使用している人数は多くても一時に数人ずつで、キャンプ開始後しばらく雨が続き、人も少なく静かで落ち着いた雰囲気を醸し出していた。

選手団が使用する機材や部屋については、基本的にBOAが設置していった機能を継承したかたちとなり、選手の競技用車いすの搬入のほかは、大きな物品の搬入は行われなかった。なお、パラ陸上は投てき競技の練習も本競技場で行ったため、投てき選手がキャンピングするキャンプの後半の時期には、本競技場に備え付けの大型投てきケージを常時設置することとなり、市側のスタッフやサポーターが英国チームのコーチの指示に従って投てき用のライン引きを行った。

また、車いすマラソン種目の練習は事前キャンプも終わろうとする8月末に集中的に行われたが、選手から実戦形式で練習を行いたいとの要望があり、等々力陸上競技場を新国立競技場に見立て、トラックで何度もスタートとフィニッシュの練習を行うこととなった。本番さながらの練習を盛り上げようと、当日活動にあたったサポーターたちも十分な距離をおきながら拍手で応援していたところ、感激した選手から最後に記念撮影を求められたという嬉しい出来事もあった。選手たちの中には、一度選手村に入村したものの、等々



競技場スタッフとサポーター総出で等々力陸上競技場のフィールドに投てきラインを引く

力陸上競技場が忘れられず、また戻ってきて試合の直前まで調整を続ける者もいた。

## ■ 事前キャンプ運営体制

オリンピック代表チームの事前キャンプ時とは異なり、キャンプ期間中BPAスタッフは等々力陸上競技場には常駐せず、陸上チームのリーダー数人が入れ替わりで来場し、練習会場のセットアップや現場での選手・スタッフと市側の連絡調整を担った。BPAスタッフも限られた人員のため、事前キャンプ担当者は宿泊施設をベースに各トレーニング施設を巡回して対応し、他のスタッフもセキュリティ、機材の搬出入、移送、医療等のチームに分かれ、ベースとする宿泊施設から必要に応じて等々力陸上競技場や慶應義塾大学日吉キャンパスを巡回するかたちをとった。特に医療チームは、選手団の宿泊施設がみなとみらい地区の2施設と慶應義塾大学日吉キャンパスに分かれていたため、毎日専用車両で施設を巡回するなどして、BOA以上に感染症対策と選手の体調管理に細心の注意を払っていた。

## ■ その他

パラリンピック代表チーム受入れの時期は、日本国内の新型コロナウイルス感染症の感染状況が非常に



競技スケジュールにあわせ夜遅くまで練習は続く

悪化していた第5波の時期と重なっていたこともあり、英国メディア向け取材対応や市民向けの公開練習などは一切行われなかった。本市との調整の結果、建物外部からの選手来場の様子撮影のみ可能となったため、本市記者クラブ向けに情報提供を行い、1日のみ間接的な取材を行うことができた。

また、BPAの英国パブルの設定にはBOA以上に厳しい基準があり、来日しているVIPによる競技場訪問はかなわなかったが、スポーツ局長・選手団長のペニー・ブリスコー氏が選手の激励に訪れた。また、事前キャンプ初日の8月14日夕刻に等々力緑地で行われたパラ聖火フェスティバルと採火式にBPAスタッフ及びパラ陸上スタッフが来賓として参加し、「かわさきパラムーブメント」を進め



視察に訪れたBPAスポーツ局長・選手団長(右)

る川崎市と川崎市民へメッセージを寄せてくれた。大雨の中での式典となったが、パラリンピック代表チームとの交流機会がないなか、各区の採火式参加者や福田市長はじめ本市関係者と間接的な交流を行うことができたことは幸いだった。



降りしきる雨のなか行われた川崎市採火式(2021年8月14日)

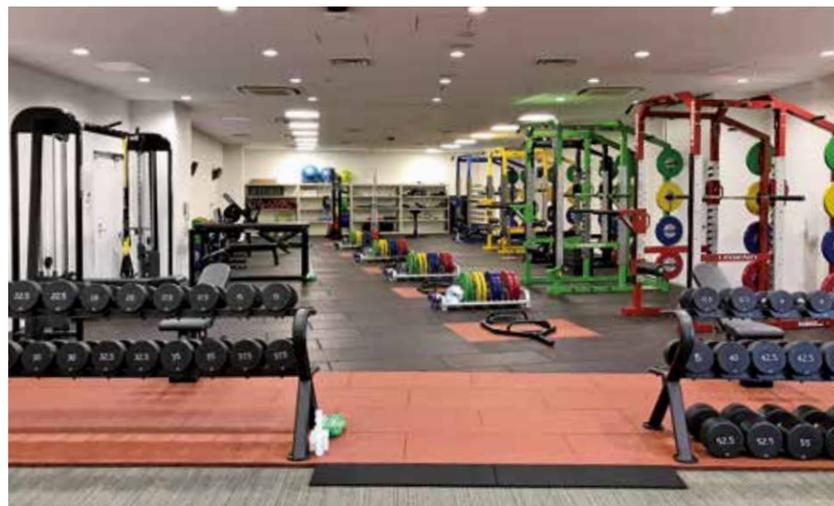


採火式に参加したBPAスタッフと福田市長

# 事前キャンプでの 等々力陸上競技場各諸室の使われ方



ラウンジ



ハイパフォーマンスジム



フィジオ(マッサージ)ルーム

川崎等々力陸上競技場は、Jリーグ川崎フロンターレのホームグラウンドでもあり、サッカー以外にも陸上競技大会をはじめとしたさまざまなスポーツイベントが行われているほか、試合がない日には一般利用も行われている。川崎市は英国代表チーム事前キャンプ受入れに際して、BOA及びBPAとの契約に基づき、事前キャンプ期間中代表チーム専用の練習会場として貸し出しており、選手団はトラック・フィールドを使用してトレーニングを行うほか、メインスタンド内にあるホールや各諸室でもトレーニングを行った。各諸室は期間中、BOAやBPAのバナーやユニオンジャック柄の家具で彩られ、それぞれの部屋にはさまざまな専用機材が設置されて事前キャンプ施設としての機能が整えられた。ここでは普段は見られない諸室の事前キャンプでの機能と使われ方を紹介する。

## ■ 本競技場

### ①ラウンジ

トラックに面して一面ガラス張りとなっている諸室に、BOAが事前に英国国内で購入したソファやテーブル、コーヒーメーカーなどを船便で運び込み、選手・スタッフ用のラウンジとしてセットアップした。ここでは選手・スタッフがパソコンで事務作業をしたり、ホテルから持参したランチや軽食を食べたり、コーヒーを飲みながらテレビで東京2020大会でのチームの活躍を応援したり、といったラウンジの機能を果たし、BOA撤収後も引き続きBPAが家具類を引継ぎラウンジとして使用した。

### ②ハイパフォーマンスジム

Jリーグシーズン中は記者会見室



ホール



ホールで競技用車いすのセットアップ

として使用している部屋に、プロフェッショナル集団が先乗りしてBOAスタッフと一緒にウェイトトレーニング用の機材一式を2日間かけて設置し、事前キャンプ期間中は選手のハイパフォーマンスジムとしてフル稼働した。床にはゴム製のマットが敷かれ、エアロバイクやダンベルセット、バランスボール、ヨガマットなども準備され、トップアスリートのトレーニング会場にふさわしいたたずまいを見せていた。BPAが引き続き使用したあと、再び専門家集団が来場し機材を撤収した。

### ③フィジオ(マッサージ)ルーム

トラック・フィールドに面したもう一方の諸室に、マッサージベッドや冷凍ストッカーが運び込まれ、理学療法士が常駐して選手のマッサージを行うフィジオルームに姿を変えた。川崎市が準備して競技場の別の場所に設置しておいた市民の応援メッセージ入りユニオンジャック



救護室を川崎市運営本部として使用

この場所で着物を羽織った姿の選手・スタッフが自らのSNSで日本文化を楽しんでいる姿を数多く発信するなど、英国バブル内の様子を外部からうかがい知ることのできる貴重な空間ともなった。

## ■ 補助競技場 (オリンピック陸上チームのみ使用)

BOA事前キャンプ時には、補助競技場が投てき競技の専用練習会場となった。選手とコーチは専用バスでまず競技場メインスタンド入口に到着したあと、市職員とサポーターの先導により徒歩で補助競技場へ移動し、自ら持参したハンマーや砲丸、円盤に加え、本競技場、補助競技場備え付けの投てき用具も使用して練習を行った。補助競技場での投てきケージの設置やライン引きにあたっては、法政大学第二高等学校の陸上部の先生と生徒の皆さんに御協力いただいた。また、補助競技場はフェンスで回りを覆われてはいるものの、四隅を通路で囲われている場でもあり、通行人は誰でも気軽に選手の練習風景を見学できる唯一の場ともなった。



補助競技場での投てき練習

が、BOAスタッフによっていつの間にか室内に運び込まれ、事前キャンプ期間中選手団を温かく見守った。BPAの事前キャンプの終了時には、理学療法士から、英国ラフバラ大学ナショナルトレーニングセンターのフィジオルームに記念に持って帰って飾りたいという依頼があり、市民を代表して川崎市からユニオンジャックを贈呈した。

### ④ホール

競技場メインスタンド1階の中央エントランスは、サッカーの試合時には選手がフィールドに向け走り出していく場所となるが、事前キャンプ期間中は、選手団が集まって談笑したり、機材を準備したりする中央広場的な空間に姿を変えた。川崎市側も、英国代表チーム川崎キャンプ推進協議会の会員企業・団体が準備した生け花や着物、水引を使ったアート作品など、日本文化のおもてなしコーナーを設置したり、市内小学生からのメッセージボードなどを掲示したりして、選手たちの心をなごませるような演出を行った。また、BOAのキャンプ期間中にはトレッドミルが設置され、BPAの使用時には車いすレーサーのセットアップや練習場所になるなど、広いスペースを活用したトレーニング会場としても機能した。

# サポーター事業の経緯及び キャンプ期間中の活動概要

2021（令和3）年夏に行われた英国代表チーム川崎キャンプの受入れの成功は、ボランティアの活躍なくして語ることはできない。川崎市が募集したボランティア「英国代表チーム川崎キャンプサポーター（サポーター）」は、コロナ禍という困難な状況のなか、チームワークと創意工夫で立ち向かい、事前キャンプ運営に欠かせないさまざまなサポートをこなした。多くの英国選手やスタッフが思わず「最高！」と太鼓判を押したおもてなしの中核を担ったボランティアについて、募集開始から活動終了まで、その経過や活動内容を、派生して生まれた「GO!川崎応援パートナー」とあわせて紹介する。

## 想定を超えた 約1,600人の応募

2019（令和元）年7月から9月初頭まで、川崎市は英国代表チームの事前キャンプに従事するボランティア「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」を300名程度募集した。「Home to Home」～あなたのサポートで、英国選手を川崎のファミ



川崎市のブランドメッセージカラーを基調とした英国代表チーム川崎キャンプサポーターロゴマーク

リーに～」を合言葉に、募集にあたって、18歳以上、市内在住・在勤・在学、事前キャンプ期間中5日以上活動、メールや携帯電話での連絡、英語でのコミュニケーションに臨むことが可能などの条件を設定した。また、市内各所で計6回の説明会を開催したほか、市内主要鉄道駅やウェブ上での告知などを行い、積極的な広報活動を展開した。募集当初、担当職員たちは応募が集まるか心配していたが、ふたを開けると、募集定員を大幅に超え1,601名の応募があった。想定外の応募殺到に、急遽選考の場となる面談会の追加開催に向け会場確保を余儀なくされた。同時期に、英国代表チームによる事前キャ

ンプ受入施設が、当初予定の3か所から等々力陸上競技場1か所に変更になったため、定員が減少したことも重なり、選考は困難を極めた。最終的に227名がサポーターとして登録する運びとなった。

## 研修や交流で機運が 高まった矢先 まさかの事前キャンプ延期

第1回サポーター研修会を、2020（令和2）年2月18日及び24日の2回に分け、等々力陸上競技場で開催した。この研修には、英国代表チーム川崎キャンプ運営・サポート事務局（事務局）からのキャンプ概要やサポーター活動内容の紹介だけでなく、選手たちへのおもてなしを考えるグループディスカッションや普段は見ることができない競技場のバックヤードツアーも取り入れた。登録後、初めて顔を合わせるサポーターたちは現場を目の当たりにし興奮と期待を高めるとともに、「自分たちにどんなサポートができるか？」と真剣に意見交換を行った。



第1回サポーター研修会（2020年2月）

英国代表チームの受入れに向けて機運が高まりつつあった同年3月にまさかの事態が起こった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大である。予定されていた第2回サポーター研修会を感染拡大を理由に直前に取

りやめた矢先、同月24日に東京2020大会の延期が決定された。英国事前キャンプの計画の見直しとともに、サポーター活動も再調整となった。

## オンライン活動を中心に 英国受入れに備える

緊急事態宣言下で規模を縮小して運営を続ける事務局は、来る延期後の英国事前キャンプ受入れに備え、受入れ施設で活動するサポーターの確保とモチベーションの維持向上につなげるため、オンラインを中心とした活動に移行した。同年9月に活動継続の意向確認を行い、登録者数が202名となったサポーターに対して、翌10月末にオンライン説明会を開催。当面のサポーター活動や、新たに導入するSNS「Team Kawasaki Workplace (Workplace)」の導入などを説明し、順次活動を再開した。

一方、英国オリンピック代表チーム「Team GB」の選手団長のマーク・イングラッド氏によるレター、英国セーリング代表のルーク・ベイシェンズ氏によるビデオ、英国パラリンピック委員会（BPA）事前キャンプ運営責任者のアネリ・マクドナルド氏によるビデオが続々川崎市に届き、見通しの悪い状況において、サポーターへの感謝と激励の言葉が送られた。

また、同年10月から12月にかけて、英国オリンピック委員会（BOA）事前キャンプ担当のニコラ・フィリップス氏、ケイ・フィンチ氏、ジョエル・マクニエル氏、BPA事前キャンプ運営責任者のアネリ・マクドナルド氏によるウェビナーがそれぞれ開催され、英国代表チームが着実に来川を目指している事実を英国側から直接伝えることで、サポーターの意欲をつないだ。定期的にオンライン説明会を開催し最新の状況を報告しながら、義肢装具士の臼井二美男氏とパラ陸上選手の手塚圭太選手を招きパラス



BOA事前キャンプ担当者を招いてサポーター向けのウェビナーを開催（2020年10月）

ポーツの現状を語るオンラインセミナーの開催、事務局とサポーター、サポーター同士でオンラインでさまざまな情報を共有できるWorkplaceを通じたSNS上の交流、英国旗入り専用ユニフォームの制作、英国に向けたメッセージ動画の撮影など、少しずつサポーター間に連帯感を醸成する企画を打ち出した。2021（令和3）年3月には、BOA主催のセミナーにおいて、事前キャンプ担当者から、サポーター活動ではコロナ禍で直接交流ができない、という残念なニュースが伝えられた。手と手が触れ合うような密なサポートを夢見た当初とは真逆の状況に離脱するサポーターも現れたが、多くのサポーターは気持ちを切り替え、英国代表チームの受入れに備えた。



英国代表チーム川崎キャンプサポート活動従事者用ユニフォーム（ポロシャツとマスク）

## 事前キャンプ本番 サポーターが見せた 珠玉のおもてなし

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、事前キャンプの具体的な内容が依然不透明な状況ながら、間近に迫りつつある英国代表チームの受入れに向けて、サポーター活動準備も具体化する。

2021（令和3）年度に入り、再度の活動継続意向の確認の結果、159名となったサポーターに対し、5月末に第2回サポーター研修会をオンライン開催し、必要な感染症対策やコロナ禍でのサポーター活動を伝えるとともにシフト希望調査を開始した。活動場所は等々力陸上競技場と横浜市みなとみらい地区の宿泊施設の2か所で、それぞれの体制に応じて最大3交代のシフト体制を組んだ。仮定を前提として練り上げた活動計画を策定し、なんとか選手たちのサポートに穴の開かない受入れ体制が整った。

7月に入り、いよいよ英国オリンピック代表チームがやってきた。サポーターは、社会的距離を確保し接触が伴わないかたちで、選手団や車両の誘導、競技用具のセットアップ、本競技場と補助競技場との間の移動サポート、消毒対応など、練習

### ▶英国事前キャンプ川崎キャンプサポーター 最終登録結果

【選考結果概要】 ●募集期間 2019（令和元）年7月1日～9月2日

●応募者総数	1,601名	世代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
〈男性〉	508名(31.7%)	内訳	6.0%	7.4%	14.4%	27.8%	28.5%	11.5%	4.1%
〈女性〉	1,093名(68.3%)								

●面談会参加者数	1,264名	世代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
〈男性〉	400名(31.6%)	内訳	5.1%	7.0%	12.2%	27.8%	30.5%	12.7%	4.6%
〈女性〉	864名(68.4%)								

●最終登録者数 227名（2019年12月時点）

#### ●面談会

応募者面談会への参加がサポーター選考の要件となっており、グループワーク、グループディスカッション、グループ面談を通じ、応募者の英語能力や人柄などを確認  
※2019（令和元）年9月25日～10月14日、6日間で合計14コマ、各回2時間10分で開催

環境を整えるため多岐に渡るサポートを担った。サポートにあたり、7日に1回のPCR検査、期間中の体調管理などの感染症対策はもちろん、熱中症対策にも気を配りながらの活動となった。宿泊施設では、一般の宿泊客も滞在する難しい状況ながら、選手たちの動線を確認し、選手団が利用するレンタカーの駐車場へ誘導するなど、横浜市ボランティアと合同で受入れに従事した。



宿泊施設でのお見送りで、心が通う瞬間

活動の中で、特に光ったのが、数々のおもてなしである。トラブルにより予定していたサポート活動が突然なくなることも頻繁に発生するなかで、空いた時間を埋めるかたちで、コロナ禍でもできるおもてなしをサポーターたちが企画し始めた。サポーターの提案により、Workplace上に、サポーターが自由投稿できる施設ごとの情報交換グループが設置され、シフトごとにメンバーが入れ替わるサポーター同士、現場とオ

ンラインを巧みに行き来しながらオリジナルの記念品などを創作した。多くの制限が課される状況ながら、日々入れ替わるメッセージボード、スポーツになぞらえた折り紙作品、選手名をカタカナで記載したプレゼントカードなど、ユニークなおもてなしを多数編み出した。練習を終えた選手の中には、毎日の楽しみかのように笑顔でリアクションする選手もいれば、SNSにその様子を載せたり、なかには、想いあふれるプレゼ

ントに思わず涙ぐむ選手もいた。手と手は触れ合わずとも、英国と川崎の心が通った、素晴らしい風景がそこにはあった。

### ■ サクスデーと活動報告を経て活動終了

最終的に、英国代表チーム川崎キャンプに従事したサポーターは、118名。事前キャンプ終了後も、交流を続けた。

2021(令和3)年11月21日にエボックなかはらでサポーターサクスデーを開催し、従事終了から2か月以上を経て、サポーターが一堂に会し、活動を振り返った。オンライン参加者も含め66人が集まった会場には、事前キャンプ当時の装飾が会場に再現され、「ホストタウン功労者(内閣官房主催)」の受賞報告と表彰をはじめ、英国代表チーム関係者からのメッセージ動画や事前キャンプ記録映像の上映、英国代表チームから贈



密を避けるために各グループに分かれて記念撮影(2021年11月)



折り鶴の早折り競争に挑戦



英国ゆかりの曲で、会場が一体となった

られたの記念品の抽選会が行われた。サクスデー後半には、サポーター自主企画として、事前キャンプ期間中に選手団への記念品として数多くプレゼントしてきた折り鶴をグループ対抗で早折りして競う「GO KW! Origami Championship」が行われた。終盤は、英国選手たちへの応援歌として事前キャンプ期間中に企画した英国ゆかりの曲の替え歌をピアノ伴奏付きでを全員で合唱し、大いに盛りあがった。また、2022(令和4)年1月から市内17か所で開催された英国川崎キャンプ記念巡回展では、サポーター有志が会場案内に協力した。また、同年2月20日に開催した「かわさきパラムーブメントフォーラム」内で、サポーター代表者が英国代表チーム川崎キャンプの活動報告を行った。

2022(令和4)年2月末をもって、英国代表チーム川崎キャンプサポーターは活動を終了した。今後は、東京2020大会を契機に更なる推進を図る「かわさきパラムーブメント」の取組を中心に、引き続き想いあるサポーターのネットワークをいかし、英国事前キャンプでの類まれなる経

験を、共生社会の実現に向けた新たな活動へ継承していく。

### ■ 縁の下の力持ち、GOGB! 川崎応援パートナー

川崎市では、サポーター募集に対して非常に多くの応募があったことを受け、このパワーをいかすべく、事前キャンプ関連イベントへの参加や広報協力を担う「GOGB! 川崎応援パートナー(パートナー)」を2019(令和元)年12月に新たに設置し、サポーター登録対象から外れた方々のうち、希望があった249名の登録を行った。2020(令和2)年2月4日に交流会を企画し、計35名のパートナーが、ワールドカフェ「わたしたちだからできる、英国の応援」を通じて、

自身でできる多様なアイデアを生み出した。

同年3月の東京2020大会延期を受け、サポーター同様、パートナー活動も再調整となった。英国代表チームに直接関わるサポーター活動の内容ですら直前まで不明確だったこともあり、具体的な活動こそ実施がなかなかだったが、川崎市が主催した「カワサキテディ&ローズ」などの英国応援の活動へ協力して下さったほか、最終的には中止となってしまったもののオリンピック聖火リレーのボランティアとして30人強のパートナーから参加表明をいただくなど、陰で川崎市のオリンピック・パラリンピック関連の事業を支える存在であった。



パートナー交流会には35名が集まり、さまざまなアイデアを出し合った(2020年2月)



英国側のカメラマンが写真に収めたサポーターたちの笑顔



サプライズバースデーに感激するソフィー・カムリッシュ選手



選手の名前をカタカナで表記した「カタカナ・ステーション」は大好評



宿泊施設エントランスで、横浜市ボランティアとともに選手をお出迎え

# 事前キャンプでの 新型コロナウイルス感染症対策

海外から選手団を受け入れるホストタウン自治体は、東京2020大会が延期される前には全く想定もしていなかった新型コロナウイルス感染症対策の徹底を求められることになった。「選手等を保護し安全・安心な大会運営の実現を図る観点と、ホストタウン等の住民への感染防止の観点」から感染症対策に万全を期するため、国の「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」での議論の進捗状況に沿って、2020（令和2）年12月に内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局から発出された「事務連絡」を皮切りに、選手等受入れマニュアルの作成やその遵守にかかる相手国との事前の合意書の取り交わしなどが自治体に課せられたのである。

職員やボランティアが選手団と密接に関わりながら運営をサポートすることを前提に準備を進めていた我々は、国内外の感染状況が日々悪化するなか、最悪の事態も念頭に置きつつ、日英双方の感染症に関する認識をすり合わせながら、BOA、BPA、横浜市、慶應義塾大学の担当者とともに、事前キャンプでの具体的な感染予防対策を検討していくこととなった。

## 英国バブルの設定と動線分離等の徹底

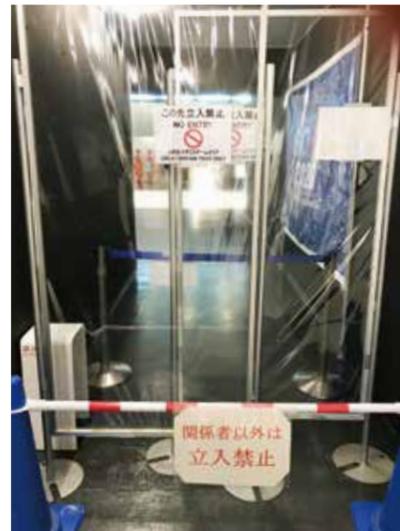
事前キャンプ期間中の感染症対策の責務を負うのは自治体とされたことから、川崎市と横浜市が中心となり、感染症の専門家の助言も得ながら、国から示されたマニュアル作成の手引きを参考に感染症対策の検討

を進めた。等々力陸上競技場や宿泊施設などの各施設では「英国バブル」を設置することとし、基本的な概念を次のように整理した。

- 屋内、屋外での基本的かつ共通の感染予防策を定めた上で、各受入れ施設における具体的な対策を検討する。
- 専用車両等の利用に際しては、各業界が取りまとめている対策マニュアル等も参考とする。
- 施設、箇所ごとに選手団の動線とホストタウン側関係者の動線の分離を詳細に定める。
- 英国バブル内の感染症対策責任者はBOA/BPA、バブル外の責任者はホストタウン自治体（等々力陸上競技場であれば川崎市、宿泊施設であれば横浜市）とする。

さらに、選手団が活動する「英国バブル」を最も感染症対策が厳しい「レベル1」と設定し、活動内容と活動可能な者ごとにレベル1から5まで分類した。バブル内に立ち入って選手団と近接して対応することのある専用車両の運転手や一部の市職員はレベル2、選手団と近接する活動は行わない等々力陸上競技場のスタッフやボランティア、市の応援職員はレベル4、という具合である。活動に従事する川崎市、横浜市、慶應義塾大学のスタッフは、ボランティアであっても委託事業者であっても、全員がこのルールに従い、各自の名前と感染症対策のレベルを明記したパスコントロールを図って活動にあたるようにした。

英国バブルの概念が確立したあとは、各行動場面に沿った具体的な感染症対策案を受入れ側で表にまとめ



等々力陸上競技場メインスタンド内でのバブル設置と動線分離

てBOA/BPAへ提示し、先方の感染症対策責任者が確認の上、英国側でさらに厳しい対策が必要な場合はそれに従うこととした。とはいいつつも、数百人に及ぶ選手団への認識徹底は英国側でも容易ではなく、実際の事前キャンプ受入れ現場では、バブル外にさまよい出そうになる選手も時折見受けられたため、初めて施設に到着した選手やスタッフなどに対しては、動線が交錯しないよう、BOA/BPA担当者や張り紙などを通じて注意喚起を促すようにした。英国バブル内の感染症対策は徹底しており、宿泊施設やトレーニングスペースの英国バブル内にはBOA/BPAが自国から消毒機材等を持ち込み、また医師・看護師も帯同しているため、日本側、英国側ともが安心して事前キャンプの運営に取り組むことができた。

この他、基本的な感染予防対策として、選手と2メートル以内では会話しない、握手などの身体的な接触は行わない、不織布マスクを着用する、

休憩時の飲食は個食・黙食とする、などの事項を徹底した。

## PCR検査

国の方針により、選手団はもちろんのこと、事前キャンプに従事する者は全て定められた回数のPCR検査を受けることとされており、検査の実施もホストタウン自治体の責務となった。川崎市では、等々力陸上競技場で活動する川崎市関係者（市職員、競技場スタッフ、サポーター、その他競技場の事前キャンプ受入れ施設内に立ち入る者は全て）及び宿泊施設で活動する本市サポーターを対象として検査を実施した。特に、毎日代表チームのスタッフと近接して調整を行う機会が多いオリンピック・パラリンピック推進室の担当者は、約2か月の事前キャンプ受入れの間、毎日始業と同時にPCR検査キットに唾液を流し込むことが日課となった。

検査の流れは、事前に市側で等々力陸上競技場など本市関係者の活動場所で検体を取りまとめておき、検査会社が毎日夕方に検体を回収して当日中に検査を行い、結果を夜9時過ぎに本市担当者あてに通知するというものとなっていた。担当職員は毎晩、結果通知を受領するまで



PCR検査キットと検査案内



屋外（等々力陸上競技場正面エントランス前）でもパーティションで動線を分離して英国選手団を歓迎（BOA会長のヒュー・ロバートソン氏（右）及びCEOのアンディ・アンソン氏（左）が来訪した際の様子）

落ち着いた時間を過ごすこととなるのだが、事前キャンプの受入れが始まった時期は、国内で急速に感染が拡大した時期と重なり、さらにオリンピック大会が始まった頃には東京2020大会関連の検査数も激増したため、深夜まで結果通知が来ない日々が続いた。万が一陽性疑い者が発生した場合の対応を考えると、検査結果を確認するまでは寝るに寝られない。こうして事前キャンプ期間中、担当職員は寝不足の日々を送ることとなった。これは川崎市に限らず、どのホストタウン自治体でも同じ状況であったと思われる。英国選手団からも川崎市関係者からも誰一人陽性者が出なかったことは本当に幸いであった。

## 新型コロナウイルス感染症対策事業を振り返って

ホストタウン自治体が事前キャンプ受入れの際に実施しなければならなかったこれらの感染症対策事業は、国から実施にあたっての詳細な指針が示され、必要な予算額については、スポーツ庁が所管する国の令和2年度第3次補正予算から都道

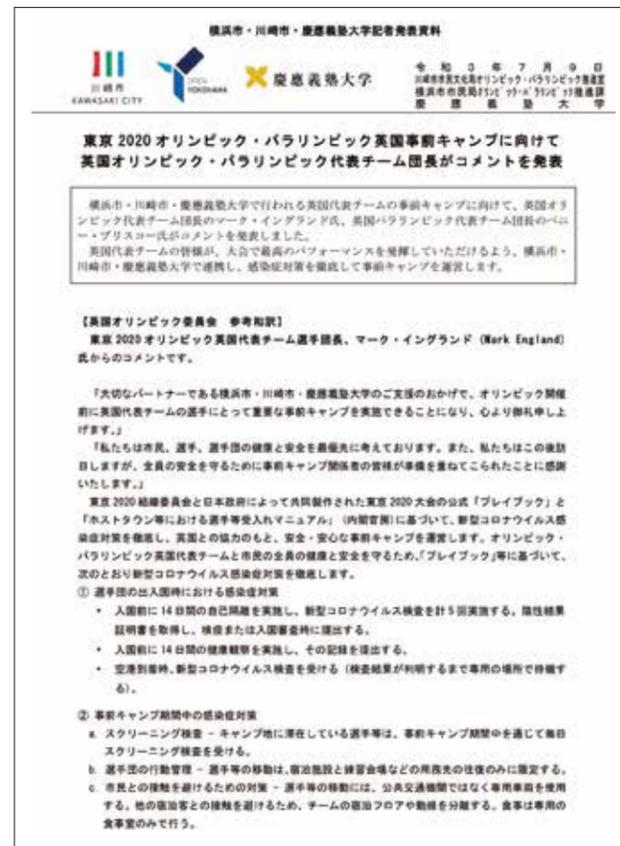
府県を通じて全額が補助金として各ホストタウン自治体へ支出されることとなった。川崎市、横浜市は神奈川県へ補助金の申請を行うこととなり、本市も必要な感染症対策事業費予算額について令和3年度川崎市当初予算及び補正予算（6月）に必要額を計上した。

2021（令和3）年5月には市議会常任委員会へ事前キャンプ受入れに関する報告を行い、コロナ禍での受入れに向けた質疑のなかでは、厳しくも温かい励ましの言葉もいただいた。本会議での審議を経て補正予算の承認を得たのは6月であるが、国から示されるPCR検査の頻度や選手団の移動の際のソーシャルディスタンスの考え方などが目まぐるしく変更となり、また、実際のところ英国選手団が入国してから国内移動スケジュールや移動方法が明らかになったため、申請した補助金額と実績額が大きく変わることとなってしまった。

このホストタウンでの感染症対策にかかる一連の業務は、極めて突発的で行政におよそなじまないものであった。全体像がはっきりとしない状況下にあっても確固たる方針の

# 事前キャンプ期間中の 公開練習や選手からのメッセージ

下、具体的な実施内容を選手団の詳細なスケジュールや所在なども含めて明らかにせねばならず、ともすれば机上の空論で終わってしまう可能性もあった。本市が受入れた英国代表チームの選手団は入国前から2週間の自主隔離を行い、滞在中も我々とともに徹底した感染症対策に取り組む、陽性者の発生もなく無事事前キャンプを終えることができた。関係者全員の努力の賜物である。



③ ホストタウン関係者の感染症対策  
ホストタウンの事前キャンプに従事する市職員、宿泊施設や練習会場の関係者は、ワクチン接種を受け（任意）、従事前14日間の健康観察を実施する（毎日の検温を含む）。接触の度合いに応じて、定期的にスクリーニング検査を受ける。  
以上

【英国パラリンピック委員会 参考和訳】  
東京2020パラリンピック英国選手団長、ペニー・ブリスコー（Penny Briscoe）氏からのコメントです。

「選手の事前キャンプを運営するため、パートナーである横浜市・川崎市・慶應義塾大学と緊密に連携・協力してきました。また、英国と日本のチーム全体で、選手団や市民の健康と安全を最優先に考え、入念な計画を立ててきました。」

「『プレイブック』に基づき、チーム全員の安全を守るために、検査を含むさまざまな感染症対策を徹底します。パートナーの皆様との緊密な協力のおかげで事前キャンプを実施できることになり、心より御礼申し上げます。選手たちは、皆様が私たちのためにご尽力いただいたことに感謝しており、訪日を心待ちにしております。」

【原文】  
Team GB Chef de Mission for the Tokyo Olympic Games, Mark England, said: "We are extremely proud and grateful for the ongoing support that we have received from our valued partners in Yokohama, Kawasaki and Keio University in ensuring that we can provide the optimum Preparation Camp for Team GB athletes before they compete at the Tokyo Olympic Games."  
"The health and safety of the Japanese public and of the athletes and our delegation remains our number one priority and we know that our Preparation Camp partners have gone above and beyond to guarantee the safety of everyone when we arrive in country later this month."  
We will fully comply with all COVID-19 Countermeasures pertaining to the official Games 'Playbooks' produced by Tokyo 2020/Japanese government and 'Host Town Acceptance Manual' to deliver safe and secure preparation camps in cooperation with the UK.  
To safeguard all members of the Team GB and Paralympics GB and the local residents in Japan, we will fully comply with COVID-19 Countermeasures upon the official Games 'Playbooks' (IOC, IPC, Tokyo 2020) and 'Host Town Acceptance Manual' (Cabinet Secretariat) as follows:  
① Measures upon entry into and departure from Japan imposed on the delegation

- All delegates need to self-isolate 14 days prior to the departure and have five COVID tests in total. They must obtain negative test certificate and submit it to the Quarantine Officer and/or at immigration control when they arrive in Japan.
- All delegates need to do 14 days of health monitoring prior to departure and submit the record.
- All delegates need to complete COVID-19 testing on arrival of the airport. (They will wait at the designated waiting area to get their test results).

川崎市・横浜市・慶應義塾大学が合同で発出した英国選手代表団受入れにかかる選手団長からの感染症対策についてのコメント(2021年7月9日付)

② Measures during the Preparation Camps

a. Screening Test - All delegates who stay at camp sites will complete screening tests every day during their preparation camps.

b. Behavioral Management of the delegation - All delegates are restricted to travel only between their accommodation venues and their business destinations such as training venues.

c. Measures to avoid contact with the local residents - All delegates will use dedicated Games vehicles and do not use public transport. Any floors with Teams' rooms booked will be blocked and separate flows to avoid contact with other hotel guests. The delegation also use their private dining room

③ Measures for Host Town staff  
All staff members, who engage the preparation camps, in local governments, accommodation venues and training venues at Host Towns will be vaccinated (optional) and do 14 days of health monitoring including taking daily body temperatures. Also, they will have regular screening tests, depending on how close they get.  
Ends

ParalympicsGB Chef de Mission for the Tokyo Paralympic Games, Penny Briscoe, said: "We have been working closely and collaboratively with our partners in Yokohama, Kawasaki and Keio University to ensure that we can deliver successful Preparation facilities for our athletes. There has been a lot of planning across our teams in the UK and in Japan to prioritise the safety of our delegation and the health and safety of the Japanese public."  
"We will go beyond the measures outlined in the playbooks in a number of areas including testing to deliver a safe environment for the team. We are very grateful to our Japanese partners for working so closely with us to achieve this and our athletes are very aware of how hard everyone is working on their behalf and are looking forward to arriving in Japan."

東京2020大会開催に向け、国は、大会に参加する国・地域と人的・経済的・文化的な相互交流を図り、スポーツ立国、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資することを目的に、全国の自治体の「ホストタウン構想」を進め、川崎市も英国のホストタウンとして、さまざまな機会を通じ英国交流事業やイベントを実施してきた。

事前キャンプ受入れは、特に次世代を担う若い世代にとって、文化や価値観などの多様性に触れ、未来へ向けた新しい気付きを得る貴重な機会ともなる。本市では、選手団の受入れ時には、市内の児童・生徒がトップアスリートたちの練習を間近で見学したり、スタッフから直接指導を受けたりする機会やボランティアによる選手団のサポート、市内での日本文化体験や観光案内など、多くの市民が参加できる直接的・間接的な交流事業の実施を予定していた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症のまん延により、入国後の選手団の行動は厳しく管理・制限される

こととなり、直接的な交流はおろか、間接的な交流についても具体的な調整ができない状況のまま英国選手団を迎えることとなった。

感染症予防の観点から選手団との接触が厳しく制限されるなか、何とかして市民との交流の機会を持てないか、事前キャンプ開始後に英国側と粘り強く交渉したところ、オリンピック代表チームからは等々力陸上競技場でのラグビー（男子）及び陸上競技の公開練習の開催、パラリンピック代表チームからは幅広い選手・スタッフからメッセージをいただく機会をどうにか確保することができた。

## 英国オリンピック 代表チーム公開練習

### ①ラグビー（男子）

ラグビーチームの公開練習は7月17日に開催され、子どもたちを中心に約150人の参加を得た。前日に急遽開催が決まったため、川崎市ラグビーフットボール協会を通じて市内ラグビースクール参加者を中心に呼



スタンドの観客とともに「GO GB!」

びかけを行った。ラグビー選手の写真を掲載した選手一覧を急ぎ作成し、事務局運営のサポートをお願いしていた市民文化局の応援職員が前日総出で印刷製本や配布グッズの準備を行うなど、突貫での開催となった。

当日は感染症対策のため、来場者には検温、手指消毒、さらには連絡先の記入もお願いし、直接メインスタンド2階の観客席に間隔を置いて観覧していただいた。来場者はGO GBとユニオンジャックの2つの旗を持って声を出さずに拍手で選手たちを応援、練習最後にはピッチ上の選手と記念写真を撮影した。来場した子どもたちとの直接交流ができなかったことは残念だったが、世界トップレベルのラグビー選手が等々力競技場で練習する光景はめったに見られないものである。フレンドリーなラグビーチームの選手たちの笑顔に、参加者の顔もほころんだ。

### ②陸上競技

ラグビーチームの公開練習の翌週末である7月25日に陸上競技の公開練習を開催した。市側で陸上チームとBOAの広報担当の後をひたすら追いかけて調整を重ね、2日前となる7月23日の午後3時過ぎにようやく開催が決定した。そこから短時間で市内の学校陸上部や陸上競技クラブ



ラグビー公開練習 観客席での選手との交流

などへ連絡し、最終的に350人近くが選手たちの練習風景を観覧した。

陸上競技は団体競技とは異なり、当日何人の選手が何時頃に競技場にトレーニングに来るかも全く分からず、公開練習の調整を依頼した英国陸上チームの担当者も当日競技場に現れなかったため、急ぎコーチの一人に事情を説明し、全体司会をお願いすることとなった。そのコーチは英国の大学でスポーツを教えていた経験もあるとのことで、突然の依頼にも嫌な顔もせず、軽快なタッチで各選手の名前や種目を説明してくれることとなり、当日シフトで入っていたサポーターの方に通訳をお願いしてイベントが始まった。



陸上競技公開練習での幅跳びの練習の様子

幅跳びや短距離、高跳び、競歩の選手など、さまざまな種目の選手がそれぞれのタイミングで黙々と練習を行いつつ、観客に向け手を振ったり、日本語であいさつをしたりと、市民の応援を喜び、身振り手振りのできる限りの交流を実践してくれた。陸上チームとの交流としては唯一の機会となったが、選手団や参加して



パラ陸上競技 こん棒投げの練習の様子



陸上選手の練習を見守る観客たち

くれた子どもたちにとってかけがえないオリンピックの思い出となっていれば幸いである。

## パラリンピック選手団からのメッセージ

川崎市でトレーニングを行ったパラリンピック代表チームは陸上競技のみであり、新型コロナウイルス感染症のまん延も相まって、公開練習などの交流は一切行うことができなかった。川崎市としては「かわさきパラムーブメント」の推進に向け、オンライン交流やインタビューなどでパラ選手との関わりを何とか実現したいと奮闘していたが、市職員といえども英国バブル内に気軽に立ち入ることはできない。そこで戦略を改め、小型のビデオカメラを選手団に貸し出し、選手やスタッフに練習や

休息の様子を自由に撮影してもらうこととしたところ、さまざまなビデオメッセージを市スタッフや市民向けにいただき、また、選手の間近で活動している人でないと撮影できない貴重な映像も多く撮影してもらった。これらの映像を活用し、当初交流を予定していた市立学校の児童・生徒向けのメッセージビデオや本市の記録映像を制作し、間接的にはあるが、選手の率直なメッセージを子どもたちに届けることができた。



パラ陸上競技 座位での砲丸投げの練習



パラ陸上競技 レーサーに乗り練習を行う選手たち

# 事前キャンプ期間中の選手団への応援装飾の実施

2021(令和3)年夏の英国代表チーム事前キャンプ受入れ本番にあたり、英国代表チームが東京2020大会で最高のパフォーマンスを発揮できるよう応援し、また、市民も英国をより身近に感じられるよう、区役所や

等々力陸上競技場周辺に次のとおりさまざまな装飾を行った。

### ①市民への周知

市民への周知や応援機運の醸成を目的として、区役所や等々力陸上競技場周辺にてシティドレッシング等

を行った。

### ②英国選手への応援

等々力陸上競技場内や補助競技場等、選手が練習中に目にする場所にエールを込めた横断幕等の設置を行った。

### ▶バナーフラッグ

等々力陸上競技場周辺や武蔵小杉駅周辺に200以上のバナーフラッグを設置し、川崎市が英国のホストタウンであることの周知と共に大会の祝祭の雰囲気盛り上げた。

- 掲出期間 2021(令和3)年7月6日～9月5日
- 掲出場所 等々力陸上競技場周辺・武蔵小杉駅周辺



等々力陸上競技場ゲート付近



等々力緑地周辺道路



等々力緑地内公文書館前



武蔵小杉駅南口ショッピングモール周辺



武蔵小杉駅北口バスターミナル付近



武蔵小杉駅北口大通り沿い



武蔵小杉駅北口大通り



小杉二丁目交差点付近



東急線高架付近

▶懸垂幕

- 掲出期間 2021(令和3)年7月5日～9月6日
- 掲出場所 区役所など計7か所



川崎市スポーツ・文化総合センター  
(カルッツかわさき)



幸区役所



中原区役所



高津区役所



高津区役所橋出張所



宮前区役所



多摩区役所

▶階段ラッピング

等々力陸上競技場の前を通ると必ず見えるゲート階段にラッピングを実施

- 掲出期間 2021(令和3)年6月30日～9月2日
- 掲出場所 等々力陸上競技場Aゲート前階段・Bゲート前階段



等々力陸上競技場  
Aゲート前階段



等々力陸上競技場  
Bゲート前階段

▶ビッグフラッグ

選手が練習中に目にする等々力陸上競技場グラウンドのサイドスタンドに巨大なフラッグを装飾

- 掲出期間 2021(令和3)年7月2日～9月2日
- 掲出場所 等々力陸上競技場内(サイドスタンド)



▶ウェルカムゲート

選手が等々力陸上競技場に入場する入口を装飾

- 掲出期間 2021(令和3)年7月2日～9月2日
- 掲出場所 等々力陸上競技場3番ゲート前



▶横断幕①

等々力陸上補助競技場にて、選手に向けての応援の意を込めて掲出。また、同時に市民が横断幕を見ることができるよう、補助競技場内だけでなく、補助競技場外にも掲出

- 掲出期間 2021(令和3)年7月2日～9月6日
- 掲出場所 等々力陸上補助競技場7か所、川崎市公文書館前



等々力陸上補助競技場



川崎市公文書館

▶横断幕②

送迎バスの乗降時に見えるよう、等々力陸上競技場の向かい側にある等々力球場の外壁に選手へのメッセージとして掲出

- 掲出期間 2021(令和3)年7月6日～9月2日
- 掲出場所 等々力球場



▶横断幕③

等々力陸上競技場のグラウンドに複数枚掲出

- 掲出期間 2021(令和3)年7月6日～9月2日
- 掲出場所 等々力陸上競技場内(スタンド)



等々力陸上競技場  
バックスタンド



等々力陸上競技場  
入場口

## 英国オリンピック委員会からのメッセージ



Andy Anson OBE  
CEO, British Olympic Association  
英国オリンピック委員会 CEO  
アンディ・アンソン OBE

The Tokyo Olympic Games were an incredible moment for Japan and the world, bringing countries from around the globe together to celebrate strength through adversity and to marvel at the sporting feats of the world's best athletes.

With the initial postponement and the rescheduled Games taking place whilst we were still in the grip of the Covid-19 pandemic, we knew that we would need the best possible preparation to ensure our athletes had the opportunity to get to the start line and deliver their strongest performances.

Our planning for the Games started several years previously but the pandemic only increased the need to provide our athletes with the very best facilities and performance environment.

We were very fortunate to have exceptional partners for Preparation Camp partners including the City of Kawasaki who rose admirably to the challenge of providing Team GB with the very best environment for our amazing athletes to prepare.

The amazing staff and volunteers from Kawasaki met every task with positivity and a willingness to find solutions, something that benefitted the athletes who used the excellent facilities in Kawasaki.

We will always be grateful for everything Kawasaki did for Team GB before and during Tokyo 2020. Winning 65 medals in Tokyo was an incredible achievement for Team GB and we hope that you will always feel great pride in playing a part in our success during the Games.

We hope that Tokyo 2020 and Team GB will live long in the memories of those who were involved. With our sincere thanks.

東京2020オリンピック競技大会は、世界の国が一堂に会し、逆境を乗り越える強さをたたえ、世界の一流アスリートたちによるスポーツ技術に感嘆する、日本及び世界にとって本当に素晴らしい機会でした。

大会の延期と日程の変更が決定した当初、世界は依然としてCovid-19のパンデミックの最中にありましたが、私たちがなすべきことは、選手たちがスタートラインに立ち、最高のパフォーマンスを発揮する機会を確保できるよう、可能な限り最高の準備を整えることであると理解していました。

大会に向けた私たちの計画はすでに数年前から始まっていましたので、パンデミックは選手たちに提供すべき最高の施設及びパフォーマンス環境の必要性を高めたに過ぎません。

私たちは、川崎市をはじめとする卓越した事前キャンプパートナーに恵まれ、非常に幸運でした。川崎市は、Team GBの素晴らしい選手たちに最高の事前トレーニング環境を提供するという難題に、見事に立ち向かってくださいました。

川崎市の素晴らしいスタッフとボランティアの皆さんは、あらゆる業務に対して前向きに、そして解決策を見出そうという意欲を持って取り組んでくださり、それは川崎市の優れた施設を利用した選手たちに恩恵をもたらすものでした。

東京2020大会前から大会期間中にわたって、川崎市がTeam GBのためにご尽力くださったあらゆることについて、私たちは感謝を忘れることはないでしょう。東京大会で65個のメダルを獲得したことは、Team GBにとって驚くべき成果ですし、大会期間中に皆さまもこの成功の一翼を担われたことに大きな誇りを感じていただければと存じます。

東京2020大会と英国オリンピック代表チームが、末永く関係者の皆さまの思い出に残りますようお願いしております。

心より感謝を込めて。

## 英国パラリンピック委員会からのメッセージ



Mike Sharrock OBE  
CEO, British Paralympic Association  
英国パラリンピック委員会 CEO  
マイク・シャロック OBE

Our deepest thanks to Kawasaki City for your support and friendship over the past years. The delivery of the Games is an incredibly challenging operation, especially during a global pandemic. It is down to your generous hospitality and the strength of our partnership that we were able to hold our pre-Games Preparation Camp safely. Our athletes benefitted enormously from the camp and its world leading facilities.

ParalympicsGB had a very successful Games: 2nd on the medal table, 124 medals, 41 golds and countless memorable moments that will live in our hearts and minds forever. Our athletes and staff are all incredibly grateful for the welcome and friendship we received from everyone at Kawasaki City: the Mayor Fukuda and his teams, Kawasaki City Council, volunteers and citizens of Kawasaki. Your solid support, including welcome videos, letters, pictures, origami art, warm smiles, cheers and waving – they all powered us on in our journey and competition.

Mayor Fukuda's vision to use the Games to inspire the citizens of Kawasaki City mirrors our own vision to use sport to make the world a better place for disabled people. We are incredibly proud to share the same values and be part of the history of the Kawasaki City Para Movement.

Our best wishes and a big Arigato Gozaimasu to everyone at Kawasaki City.

川崎市の皆さまのこの数年のご支援と友情に心より感謝申し上げます。

世界的パンデミックの最中においてパラリンピック大会を開催することは、非常に困難なオペレーションです。こうして安全に事前キャンプを実施することができたのは、ひとえに川崎市の温かいおもてなしと、私たちの強固なパートナーシップによるものに他なりません。英国の選手たちは、今回の事前キャンプと、その世界トップクラスのトレーニング施設の恩恵を大いに享受しました。

今大会で英国パラリンピック代表チーム「ParalympicsGB」は大きな成功を収めました。メダル獲得数で世界第2位、41個の金メダルを含む124個のメダル、そして私たちの心と記憶の中に永遠に生き続ける数えきれないほどの思い出を獲得したのです。

私たち選手とスタッフ一同は、福田市長と彼のチーム、川崎市議会、ボランティア、そして川崎市民の皆さんなど、川崎市のあらゆる人々からいただいた歓迎と友情に心から感謝しています。ウェルカムビデオ、お手紙、絵、折り紙アート、温かな笑顔、応援や見送りなどのあなた方の手厚い支援 – これらはみな、私たちの旅と試合において大きな力となりました。

「東京2020大会を契機として川崎市民をインスパイアする」という福田市長のビジョンは、「スポーツを通して障害のある人々にとってより良い世界を実現する」という私たち自身のビジョンと重なります。私たちは、同じ価値を共有し、「かわさきパラムーブメント」の歴史の一部であることをたいへん誇りに思います。

私たちの感謝の気持ちと大きな「ありがとうございます」を川崎市の皆さまにお伝えしたいと思います。

# 3

## 英国応援機運の醸成や 事前キャンプ受入れ周知にかかる 幅広いエンゲージメント活動の展開

Developing a wide range of engaging activities to build momentum in support of the UK, and to publicize the hosting of preparation camps



英国選手団へメッセージを送る英国人来場者(2018年11月 第41回かわさき市民まつり)



GOGBフラッグに英国へのメッセージを寄せる来場者(2019年11月 第42回かわさき市民まつり)



「ワンチーム」となって英国へエールを送る市長、副市長、川崎市議会議員、市職員、等々カ陸上競技場スタッフの皆さん

川崎市が事前キャンプを受け入れた英国はパラリンピック発祥の国であり、ロンドン2012パラリンピック競技大会の開催を契機に、社会変革に向けたさまざまな取組を行っている国でもある。本市のエンゲージメント活動は、英国代表チーム受入れの意義や英国代表チームの魅力を広く市民の皆さんに伝え、応援機運を醸成していくことから始まった。

事前キャンプ受入れが1年延期となった際も、さまざまなツールを活用して英国応援機運を継続し、事前キャンプ終了後には受入れの記録を広く発信するなど、一貫したエンゲージメント活動を展開した。

Our guest country, the UK, is the birthplace of the Paralympic Games. It is also a country where people took various initiatives for social change in the wake of hosting the London 2012 Paralympic Games. A priority for our engagement was to spread the word about the allure of the British national team and the significance of hosting their preparation camps in Kawasaki, and to build momentum to support British national team.

Even when the preparation camps were postponed for a year, we maintained the excitement of hosting British national team in Kawasaki, and worked on consistent engagement activities throughout, including using various tools to make the documentary recordings available after the camps were over.